

交流会レポート

知的財産管理技能士会 交流委員会

知的財産管理技能士会 第17回・第18回交流会が開催されました。第17回交流会は、宇宙航空研究開発機構（JAXA）筑波宇宙センターにおいて、第18回交流会は、株式会社エンジニア（大阪）においてそれぞれ開催されました。今回の交流会レポートでは、これら2つの交流会とその模様をご紹介します。

第17回交流会「JAXA 見学交流会」

2015年8月12日開催

参加者計50名

開催にあたり

誰もが一度は“宇宙”に憧れたはず――

H-II B ロケットの打ち上げ計画など、宇宙に関するニュースが毎日のように取り上げられるちょうどタイムリーな時期に、交流委員の企画によって「JAXA 見学交流会」を実現することができました。



さらに今回は夏休み期間のため、ご家族の同伴可能という形式に。その結果、多くの方からお申込があり、応募開始からわずか1日で定員

に達しました。

“超”人気となった今回の交流会。下は小学生から上は80代の方まで、幅広い世代の50名の参加者が早朝につくば駅に集合し、貸切バスで宇宙航空研究開発機構（JAXA）に向けて出発しました。

1. 施設見学

参加した見学ツアーは「宇宙飛行士コース」。まずJAXAの研究、開発、試験などの活動内容全般をビデオで視聴した後、ツアーの始まりです。ツアーのはじめは“展示館スペースドーム”にて、さまざまな人工衛星の試験モデルや燃焼実験に使われたロケットエンジン、またISS（国際宇宙ステーション）で油井亀美也さんがロボットアームを使って捕捉に成功した物資補給機「こうのとり」の実物大模型などを中心に見学し、宇宙への想いに浸りつつ、本物の宇宙開発に触れることができました。

続いて、東京ドーム11個分の広大な敷地内をJAXAの説明員の方と一緒にバスにて移動し、「宇宙飛行士コース」見学ツアーのメインイベ

ントとなる宇宙飛行士の基礎訓練・健康管理のための施設を見学しました。宇宙飛行士になるために、低圧や閉鎖された過酷な環境に適応するための訓練設備や、回転イスのようなもので“宇宙酔い”をわざと誘発する装置を見学、さらに船外で着用する宇宙服も間近で見ることができました。宇宙飛行士が船内で食する宇宙食は、アメリカ、ロシアの食事が多いということですが、JAXA もラーメンやサバ缶などの宇宙日本食を開発し、ISS に滞在する日本や各国の宇宙飛行士に提供しているとのこと。現在海外では和食ブームですから、宇宙食でも日本食がもっと増えていった欲しいものです。

2. 基調講演 他

JAXA 職員の方が利用する食堂で昼食を済ませ、午後は JAXA より出向中の HIREC 株式会社・三保和之様より「宇宙開発と知的財産マネジメント」と題してご講演いただきました。知財技能士会の見学交流会とのことで特別に、一般見学者は入室できない「記者会見室」を講演会場としてご手配いただき、さらに他では聴くことのできない内容も交えて講演いただきました。



最初に講演のサブタイトルにもある「見る宇宙」「行く宇宙」「作る宇宙」というテーマにそって JAXA の概要をご説明いただき、JAXA の知財について、ISS とそこでの活動や生活について、さらには事故対応、JAXA のプロジェク

トマネジメントに至るまで幅広くかつ深い部分まで触れられた講演でした。

JAXA 職員は 1,500 人であるのに対し、米国 NASA はその約 12 倍、欧州宇宙機関は約 6 倍とのことです。

表:各国宇宙開発機関の職員数

| | 職員数 |
|-----------|----------------------------------|
| JAXA(日本) | 1,500 人 |
| NASA(米) | 約 18,500 人 (国防総省を含むと43,500 人) |
| ESA 他(欧州) | 約 10,000 人 |

なお、日本の宇宙産業全体での市場規模は約 9 兆円、人工衛星 1 基を製造するのに 200 億円とのこと。約 2 トンの人工衛星を 1 グラム換算すると 100 万円となり、金 (1 グラム約 40 万円) の 2 倍以上です。金の塊が飛んでいるようなものですね。

JAXA が保有する特許数は約 700 とのことで、思ったより少ないなと感じましたが、それには理由がありました。航空技術は特許にして海外でも権利化する傾向が強いのにに対し、宇宙技術については特許にせず、秘密 (ノウハウ) にしておく割合が高いそうです。“宇宙開発”という特殊性から、そうならざるを得ないのかもしれない。

ISS でのお仕事や船内での活動についても説明がありました。油井亀美也さんは、ロシアのソユーズ宇宙船を操縦するコマンダー (船長) の補佐役「レフトシーター」で、不測の事態に対してコマンダーに代わり、ソユーズ宇宙船を操縦するという重要な役割を担っているとのこと。12 月下旬に予定されているご帰還後に、宇宙体験の詳しいお話が聴けることを楽しみにしたいですね。

自由時間には、参加者の皆さんは、“ミュージアムショップ”で各自 JAXA や宇宙に関連した

グッズをおみやげとして購入されていました。今回は、ご家族ご同伴によるご参加も多く、所々で見た、知財技能士とご家族とのほのぼのとした光景も印象的でした。

バス出発までの時間を利用し、知財技能士会の各委員（編集委員、研修委員、交流委員、研究員）より、活動内容の報告や委員への勧誘（？）話がありながら、バスはつくば駅へと到着、16：30ごろに無事解散となりました。



3. 懇親会

会場をつくば駅前の飲食店に移し、懇親会が行われ、基調講演をしていただいた HIREC 株式会社の三保様にもご参加いただきました。宴席での一番の話題は「こうのとり」5号機の打ち上げについて。昨年から今年にかけ、ロシアと米国が立て続けに ISS へ生活必需品や宇宙での生命維持に欠かせない物資の運搬に失敗しており、今回の「こうのとり」5号機の打ち上げが非常に重要であり、JAXA が世界から大きな期待を背負っているということに深く感動しました。

二度の延期となりましたが、「こうのとり」は交流会が行われた日の数日後の 8 月 19 日に打ち上げられ、8 月 24 日には ISS に無事結合完了とのニュースが流れ、JAXA 関係者のみならず、世界中の方もほっと胸をなでおろしていたのではないのでしょうか。

懇親会は 20 名ほどの参加となり、最近知財技能士会に入会した方からは、「委員会活動に是非参加してみたい」という声もあり、これから益々知財技能士会が盛り上がっていく予感がありました。

今回ご参加いただけなかった方も大勢いらっしゃる JAXA 見学交流会。交流委員としては第 2 弾、第 3 弾をご用意しなければ、と強く感じさせるとても満足度の高い交流会になったと確信しています。

（交流委員 杉溪）

【JAXA 筑波宇宙センター見学のご案内】

JAXA では、筑波宇宙センター見学を実施しています。

説明員の方が、展示館と構内の施設を紹介します。事前の申込みが必要となりますので、詳しくは下記ウェブサイトをご確認ください。

筑波宇宙センター 施設見学について

<http://fanfun.jaxa.jp/visit/tsukuba/>

TEL:029-868-2023(見学案内係)

<定休日：月曜日・イベント日・年末年始（12/29～1/3）・施設点検日、なお祝日・夏休み等の月曜日は実施>

<料金：一般（18 歳以上）：500 円（税込）、高校生以下：無料>



第 18 回交流会「エンジニア見学交流会」

2015 年 9 月 4 日開催

参加者計 17 名（懇親会のみ参加者含む）

はじめに



関西地区の知財技能士の皆さんが待ち望んでいた、関西での交流会が 1 年ぶりに開催となりました。知的財産を経営に活かす元気な中小企業として、メディアにも多数取り上げられている株式会社エンジニア（以下「エンジニア」）の協力を得て「エンジニア見学交流会」が実現しました。

この企画の主なねらいは以下の 2 点です。

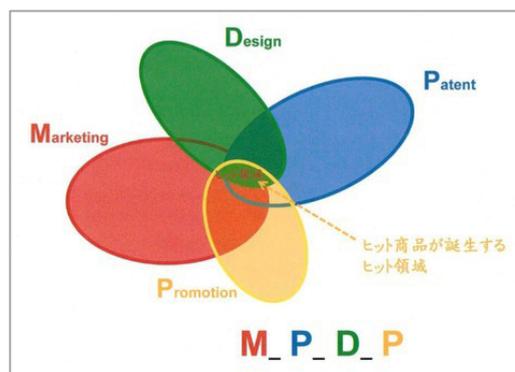
- ① 製造業の中小企業の知的財産活動の一例を学ぶ
- ② 参加者同士のディスカッションを通して、企業として望ましい知的財産活動のあり方を模索する

1. 講演

製品紹介、企業ビジョンをはじめ、MPDP 理論着想のもととなった大ヒット商品「ネジザウルス*」開発、苦労話などについて、高崎社長から講演いただきました。



MPDP 理論とは「マーケティング」「デザイン」「特許」「プロモーション」の 4 つの要素からなる製品・サービスのヒット理論です。高崎社長はこの MPDP 理論を提唱し知財管理を重視した経営に取り組んでいます。



ヒットするには、M、P、D、P の 4 要素のどれが欠けてもいけないこと、そのバランスも重要なことを、タレント発掘やスター育成のプロセスに例えて説明いただきました。全員に MPDP 理論を理解してもらうための工夫と面白さが散りばめられており、商品開発や経営の経験が少ない知財技能士にとってもわかりやすく、実務に役立つ講演内容でした。また、顧客

【見学企業 概要】

株式会社エンジニア <http://www.engineer.jp/>

作業工具の開発・製造を行う中小企業。社内にて知的財産管理技能検定の資格取得を推奨し、高崎社長自身も二級知的財産管理技能士(管理業務)の資格をもつ。

代表取締役社長：高崎 充弘 本社：大阪市東成区東今里 2-8-9 昭和 23 年 4 月創業 従業員：30 名

*ネジザウルス

エンジニアのネジ穴が潰れたネジをはさんで回せるプライヤー。年間 1 万丁売れば大ヒットとされる工具の業界で、2002 年の発売以来 250 万丁(シリーズ累計)も売れた。

のニーズやウォンツの情報収集・すくい上げ方や製品デザインへのこだわり、工具好きで知られるタレントの所ジョージさんとの交流まで、話題は幅広く興味深いものでした。

2. 企業見学

製造・広報・営業の3部署を順に見学しました。

製造部門では、3Dプリンタによって作られる試作品が「P(パテント)」と「D(デザイン)」の強化において重要な役目を担っているという話を伺いました。



その試作品を用いて弁理士に製品の特徴を説明することで、権利化したい範囲や機能が容易に理解されるようになり、打ち合わせ時間が短縮されたそうです。そして、デザインについても繊細かつスピーディーな試行錯誤が可能とのこと。「ネジザウルス GT」は、工具では珍しいグッドデザイン賞や国際的に権威あるデザイン賞である iF product design award 2011 (iF デザイン賞)を受賞しています。「男心をくすぐる」デザインを意識し、「遊び心」も忘れずに取り入

れるというユニークな視点も、このような受賞や商品のヒットにつながっているのかもしれない。



広報部門では、カタログ作成時における知的財産の活用例や使用キャラクター等の知的財産保護などについて、説明いただきました。

商品パッケージをはじめ、ポスター、カタログなどの大半は社内で制作されていますが、インターネット上にある他者の著作物を活用することが少なくありません。社内の知財技能士が資格取得の勉強によって身につけた知識によって、権利侵害等なく適切な使用が実現されているそうです。



ネジザウルスのキャラクター「ウルスくん」は、もちろん商標登録済です。着ぐるみもあり、ゆるキャライベントなどで活躍し、プロモーションに役立っています。

営業部門では、営業部 6 名全員が知財技能士資格を取得しているという強みの活かし方についてお話を伺いました。

営業先で新製品を説明する際に、特許等の製品に関する強みも自信をもって説明でき、提案力で他社との差別化を図りつつ商品の特徴を明確にアピールできるそうです。

海外部では、海外知的財産全般（海外特許・意匠・商標）を扱っており、既にアメリカ、韓国、台湾、中国で、特許を取得した商品もあるとのことでした。

3. ディスカッション

企業見学の後、4 つのグループに分かれてディスカッションを行いました。各グループで、簡単な自己紹介の後、それぞれの立場や視点で活発な意見交換が行われました。

「エンジニア」の全社を挙げての知的財産活用や各部署、各社員の積極的な取り組みに、多くの方が刺激を受けたことで、「工具での意匠は多いが、特許はなかなか難しく、同じ工具メーカーとして参考になった」、「材料系メーカーの場合、どのように MPDP を活かすことができるかを考えたい」など、参加者それぞれの感想も興味深く話題は尽きず、小規模な交流会にも関わらず盛り上がりを見せました。



各グループの発表では、「知的財産の活用にはリーダーシップが必要」という意見や、中には、「自分の会社では知財の活用がされていないので、啓蒙が課題だ」という方もいました。また、「一人一人が知財のミッションを担っている点が「エンジニア」の強みだ」とのコメントもありました。

4. 懇親会

懇親会は、高崎社長の乾杯により、なごやかな雰囲気が始まり、エンジニア社員等関係者を含め総勢 22 名が和気あいあいと交流を楽しみました。

一方で、MPDP 理論とマーケティングの 4 P との違いについての質問に対して、高崎社長が丁寧に説明されるという場面もあり、参加者の熱心さが垣間見られました。

一旦お開きとなった後も、有志はその場に残り情報交換や交流を続けており、いくら時間があっても足りないと感じるほどでした。

参加者の皆さんは、業種や職種を超えて、仕事の話や共通項である知財の話などで盛り上がり、今後の発展も感じられる有意義な交流会となりました。

（交流委員 山下・亀田）

知的財産管理技能士会・交流会のご案内

<http://www.ip-ginoushikai.org/koryukai>

* これまでの実績や今後の予定は上記ウェブをご覧ください